

虚弱子めん羊対策

○川端圭佑¹⁾・花村 瞳²⁾・加藤純規¹⁾・河野博英¹⁾・福本奈津子¹⁾

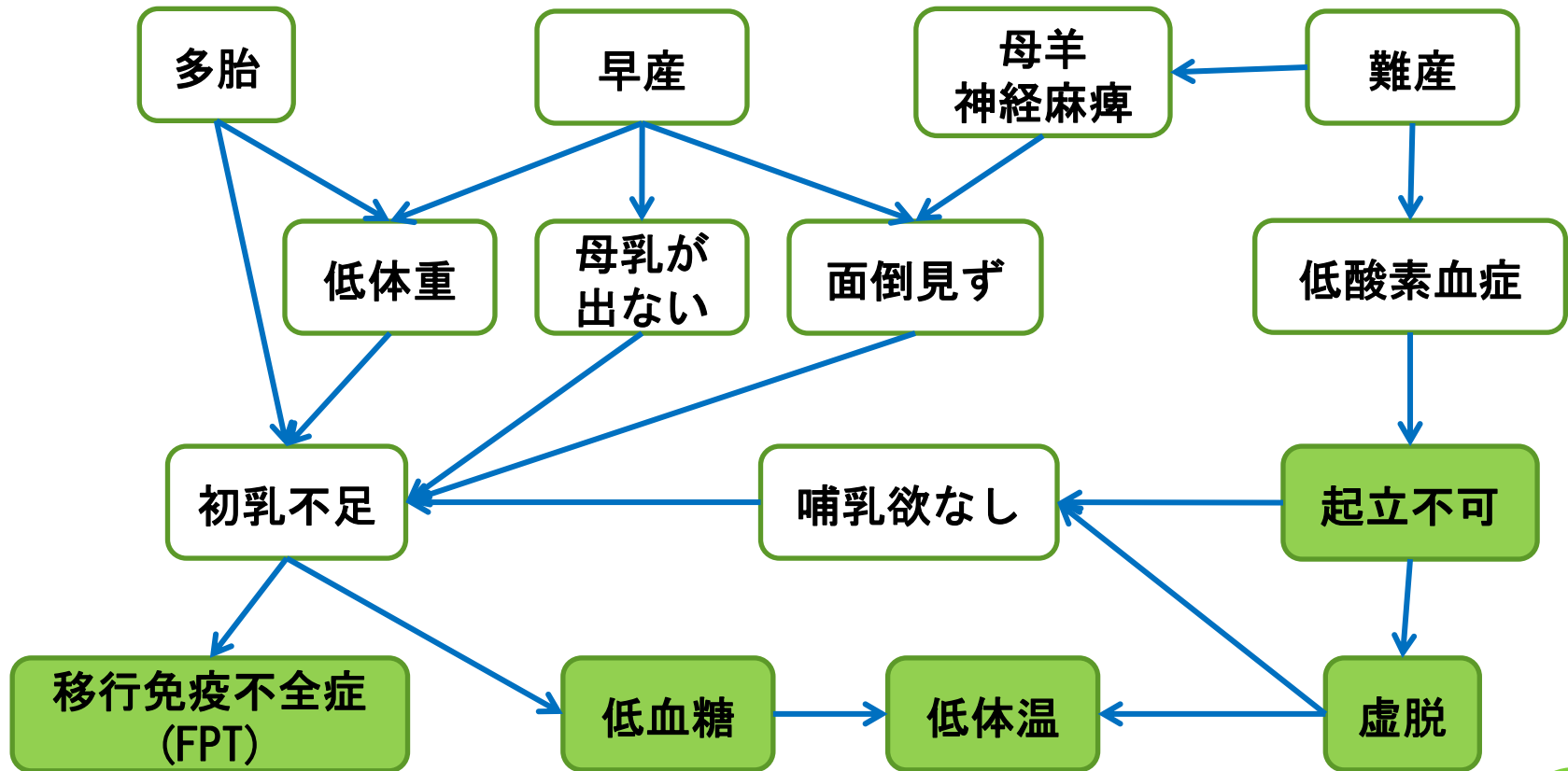
(¹⁾家畜改良センター十勝牧場 ²⁾農林水産省)



National Livestock Breeding Center
TOKACHI STATION

はじめに

○虚弱とは？



➡ 産業動物として予後が悪い

○ 新生子めん羊は、

出生時のエネルギー蓄積量が体重の3%
体重比の皮膚面積は成羊と比較して3倍以上
出生時の被毛は短く保温性に劣る
季節繁殖での分娩時期は冬～春先

厳しい条件下



新生子めん羊は、低体温症、低血糖症等を呈し
虚弱状態となり斃死することが多い。そのため
適切な看護を実施することが非常に重要



毎年10%程度の新生子めん羊が斃死しており、
救命看護ができていないケースがあることが
判明



対策マニュアル

1. 新生子めん羊対応・チェック項目
2. 虚弱子めん羊・チャート

新生子めん羊対応・チェック項目

虚弱子めん羊防止のために、以下の項目をチェックし、異常があれば対応する。

新生子めん羊

- ・ 体のどこを触っても痛がらない。腫れているところもない。(肋骨等が骨折していることもある)
- ・ 肛門は開いている。(膜が付いていれば取ってあげる)
- ・ 自分で立てる。
- ・ 体温は正常範囲 (39.0℃～40.5℃) である。
- ・ 吸乳欲はある。
- ・ 下顎の形に問題はない。
- ・ 眼瞼内反していない。(後程対応する)
- ・ 胎便は出た。(初乳を飲まず。または肛門を軽く刺激する)
- ・ 臍の消毒をした。
- ・ 濡れていない。(小さい子めん羊に対してはタオルで拭いてあげる)

凍結初乳作成について

- ・ 搾乳した給与する初乳は Brix 値 20% 以上。
- ・ 経産・単子であれば積極的に作成する。清潔に採取し、急冷凍結する。初産・早産は初乳の質、量が不足なこともあり。
- ・ 100～200ml ずつ小分けして冷凍する。必要に応じて解凍する。
- ・ 不適当な温度での初乳給与は、逆に子めん羊に悪影響を与える。

母めん羊

- ・ 乳頭からちゃんと乳が出る。(プラグが詰まれば取ってあげる)
- ・ 乳頭の向き・形に問題はない。

環境

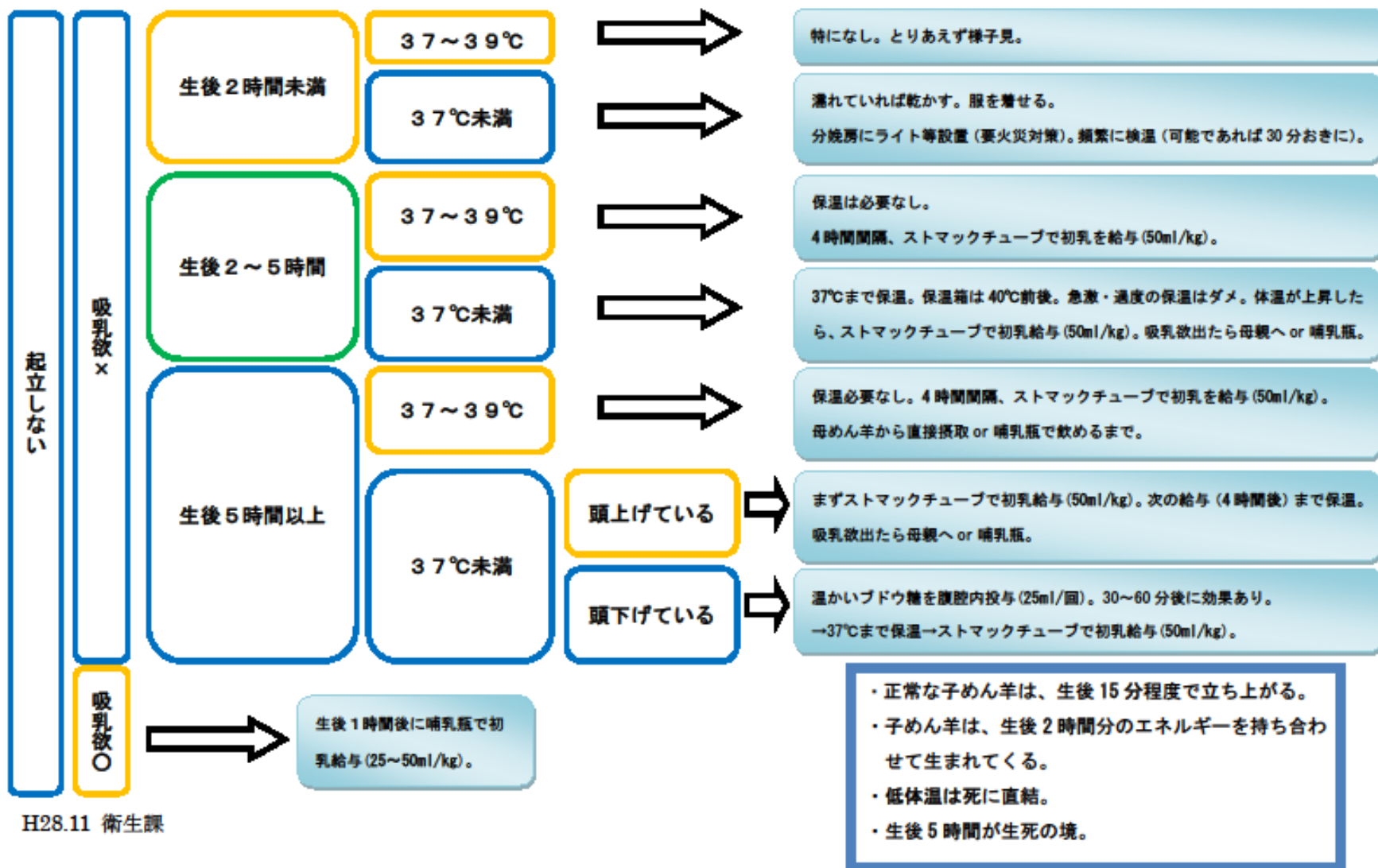
- ・ 床が濡れていない。(新しい乾燥した敷料を入れる)

初乳について

- ・ 冷凍初乳は 60℃ 未満で解かし、初乳は 40℃ にして給与。
- ・ 初乳給与は、生後 2 時間以内に 25 (～50) ml/kg、6 時間以内に 50 (～100) ml/kg、24 時間以内に 100 (～200) ml/kg が理想。
- ・ 哺乳瓶での給与は、2～4 時間間隔で OK。
- ・ ストマックチューブでの初乳給与は、50 ml/kg/回で胸骨臥位が理想。また 4 時間間隔で OK。3 回で充足。
- ・ 腹腔内投与のブドウ糖は、25 ml。

H28.11 衛生課

虚弱子めん羊対応・チャート



H28.11 衛生課



症例報告

1. 症例子めん羊

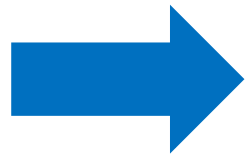
- 推定体重: 2kg
- 体温計で測定不能までの低体温 (32℃以下)
- 親面倒見ず

通常

子めん羊の斃死のうち

生後4日目までの斃死率は75%

生時体重2kg前後での斃死率は90%



対策マニュアル実施



- 起立歩行や排尿排糞が可能
- 体温39℃台まで上昇
- 自力哺乳も少量であるが可能
- 生後4日目の午後まで生存
- 第四胃内における消化吸收の形跡



この虚弱子めん羊対策の可能性を示唆した

2. 症例子めん羊

- 推定体重: 4.5kg
- 早産で助産（帝王切開）
- 親面倒見ず



対策マニキュアル実施

- 初乳給与量の充足
- 哺乳毎に体温の確認
- 母羊から搾乳（Brix値を測定）
- 異常（吸乳欲（一））時も冷静に対応可能



虚弱子めん羊以外でも本対策の可能性が示唆された



以上で発表を終わります。
ご清聴ありがとうございました。



National Livestock Breeding Center
TOKACHI STATION